THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS
日本農業新聞
発行所　日本農業新聞
〒110-8722東京都台東区秋葉原2番3号
©日本農業新聞2011
2011年（平成23年）
3 30
水曜日

元JA全中理事 NPO法人発足

熱帯雨林を再生へ

JA全中で理事や監査委員長を務めた、公認会計士の森田松太郎さん(82)が「人類に貢献できることをやりたい」と国際森林年の今年、ブラジルの熱帯雨林を保全し、持続的な農業を応援する市民団体を立ち上げた。地球温暖化の一因となっている違法な木材の伐採を止め、林の下でも育つ作物栽培を指導することで農業の活性化を目指す。東日本大震災の中でも支援を続けることで、「双方の思いをつないでいきたい」という。来年から本格始動を目指す。

団体の名前は、特定非営利活動法人（NPO法人）「VERSTA（ベルスタ）」。緑の祝祭という意味だ。地球面積の9%の森林が二酸化炭素（CO2）吸収量の半分を占めているものの、このまま、熱帯雨林の大規模な違法伐採が進めば、「あと40年で熱帯雨林は消滅する」と同法人専務の小野瀬由一さん(58)。こうした現状に危機感を抱き、同法人は東京農工大学の協力で、熱帯雨林を焼いたり伐採したりしないで、木の下で作物を栽培する「アグロフォレストリー」という農法の普及する。資金は、南米音楽のチャリティーコンサートを開いて募金を集め、これを運転資金に充てる。

サンパウロ州で始まったジュサラヤシの苗作り（ベルスタ提供）

当面は、サンパウロ州の土地のない農民を対象に、2万㌶の荒れ地に在来種のジュサラヤシを植林し、その下でコーヒーを栽培する方針。ヤシの木陰で育つコーヒーは、「アグロフォレストリーコーヒー」として付加価値を付けた商品化を目指す。小野瀬さんは「東日本大震災のことは、ブラジル人でも話題となっている。支援を通して日本とブラジル、双方の思いをつなぐ役割を果たしていきたい」としている。